

from Switzerland

岩瀬 聖典 = ユナイテッド・フイチャー・プレス

洗えるリサイクルバッグの人氣が スイスで急上昇

ごみを持ち運ぶための紙袋やビニール袋は、そのまま捨てられるケースがほとんど。リサイクルのためにごみが増える…そんな矛盾を解決するため作り出された「洗えるリサイクルバッグ」が、エコ意識が高く、きれいな好きなスイスの人々の注目を集めている。



自然をイメージしたデザインの「Sakari」
（写真提供 Yvan Hostettler <http://www.sakari.ch>）

このバッグの名前は「Sakari」で、フランス語のバッグ（sac）という単語と、仕分けする（classer）という単語から成る造語だ。

バッグの大きさは縦32センチ、横52センチ、深さ35センチ、重さは113グラム、中は、開仕切りによって9カ所に分かれている。様々なごみをリサイクル品ごとに仕分けし、入れられる。750ミリリットルの空きビン7〜8本、1.5リットルのペットボトルをつぶして15個、古新聞1週分量が同時に入る。これら全部を入れても7〜8キロ、女性でも十分に持てる重さだ。しかも、35キロまでなら破けないほど丈夫に作られている。

製造もエコロジカルに

「Sakari」の価格は1枚15スイスフラン（1.45ユーロ）、「高い」と思うかもしれない。しかし、何回も使え、3年以上もつので、長い目で見たら経済的。何より、ごみが増えないのが素晴らしい。

この機能的なバッグは発売後すぐに4万5000枚が売れた。その後、スイス内のフランス語圏の自治体が

10万枚を注文するのはヒット商品となった。

「Sakari」には、製造工程でも環境に配慮している。材料には、使い終わったプラスチック製品を溶かして再びプラスチックの原料にしたリサイクルプラスチックが使われている。また、生産工程でも再利用した。ポリプロピレンを混ぜるのは、使用済みプラスチック100%よりも、弾性や衝撃強度を高めるためだ。

ポリプロピレンは、燃やして有害ガスが発生しない、リサイクルしやすいプラスチックである。いずれは捨てられるものではあるが、できる限り「みゼロ」を目指しているのだ。

それだけではない。製造拠点は中国からフランスのマルセイユまでは船で、そこからトラックで運ばれている。

ユネーブのリサイクル団体でも働くようになった。

「Sakari」を作ったのは、使い終わったプラスチックの原料にしたリサイクルプラスチックを使ったポリプロピレンを混ぜるのには、使用済みプラスチック100%よりも、弾性や衝撃強度を高めるためだ。

「Sakari」を作ったのは、使い終わったプラスチックの原料にしたリサイクルプラスチックを使ったポリプロピレンを混ぜるのには、使用済みプラスチック100%よりも、弾性や衝撃強度を高めるためだ。

スイスのリサイクル状況は、ドイツとは非常に良い。しかし最近では家庭で出るごみを街のごみ箱に捨ててしまわない者も目立つようになってきた。そのせいか、年々街がゴミで汚くなっている。

No.0
Dec. 2006

オルタナ

環境・社会貢献の視点から
日欧モテル企業30社

戦略的社会的貢献のススメ
<http://www.altorna.co.jp>